

広島県都市計画審議会 第1回都市政策部会の議事概要について

本県における、都市計画制度の運用の基本的な考え方を示す、広島県都市計画制度運用方針の見直しにあたり専門的な検討を行うため、平成30年7月5日（木）に開催した「広島県都市計画審議会 第1回都市政策部会」の議事概要は次のとおりです。

1 広島県都市計画審議会 第1回都市政策部会の概要

議論の内容：(1)都市における課題・潮流について

(2)広島県における都市の目指すべき将来像について

2 委員からの主な意見

項目	意見要旨
全般	<ul style="list-style-type: none">・ 地区特性，地区の多様化について考慮が必要。・ 都心部，地方の中核部，郊外部という整理方法では，区分が大きすぎて広島の特徴が消えている。・ 各地域の特徴が生かせるような将来像の描き方がよい。・ 広島県としての特色ある個性的な都市計画を示してもらえれば，市町の関係者もポジティブに取組を進められる。・ コンパクトシティを考える中で，広島らしさ，広島の魅力を打ち出すことが非常に重要。・ 将来像は，ネガティブな現状からだけではなく，ポジティブな現状からも導き出せればよい。
コンパクト+ネットワーク型の都市	<ul style="list-style-type: none">・ 「コンパクトシティ」について，中山間地域でコンパクト化すると，周辺部の既存集落の生活基盤が脆弱化することから，キーワードとしての取扱いは慎重にする必要がある。・ 市街化区域の人口減少により，人口密度が低下している都市など，地区の多様性をどのように捉え，どのように対応していくのか。・ 全国的な東京への一極集中，広島県では広島市への一極集中という現状の中，一律の考え方ではなく，人口減少の周辺都市を合併した市町があるということ認識した都市計画とはどうあるべきかでないといけない。・ 各市町が独自の都市計画を利用して，それぞれのまちづくりが想像できるテーマを出すこと。・ 人口減少が進展する中，あえてコンパクトを否定してみて，広げるといった発想があってもよい。・ コンパクト+ネットワークのまちづくりを進める中で，通信や自動運転等の新技術のまちづくりへの反映のあり方など，県が指導力を発揮すること。

項目	意見要旨
活力を生み出す	<ul style="list-style-type: none"> ・広域拠点における高次都市機能の集積強化が必要であり、そのためには、県と市の連携の視点が必要。 ・連携中枢都市圏は広島県のエンジンであり、それが「広島県全体の発展」を牽引し、さらに「中四国の発展」につながるという段階的な展開の記述が良いのではないか。 <p style="margin-left: 2em;">例えば、瀬戸内の魅力を発信していく際には、隣県と連携するなど、広域的な視点を持たなければいけない。</p>
安全・安心に暮らせる	<ul style="list-style-type: none"> ・広島の特徴である土砂災害危険箇所が全国最多のところを、安全・安心に暮らせることを主軸にしたまちづくりを行う、という方向性がよい。 ・防災の取組を基盤として、まちづくりができれば、「安全・安心、復興、平和」といったキーワードから地域づくりや地域の活性化などにつながる。 ・前向きなキーワードとして「健康」を入れられないか。 ・健康に係ることとして、「人生100年の時代を見据えた準備が早い県」がキーワードになる。 ・人口減少下では、少なくなったパイを奪い合うという視点だけではなく、子育て、教育環境が充実すれば、人が住み続け、生活基盤も維持されるということも考えられることから、そこに住んでいる人がいなくなる、あるいは少しずつゆっくり増えていくといった視点での人口確保も重要。
住民主体のまちづくりが進む	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアマネジメントは軌道に乗せるまでが大変であり、そのサポートの必要性を課題として掲げること。 ・地域の魅力づくり、コミュニティ存続のためには、地域における担い手の育成が重要。 ・住民主体のまちづくりについて、様々な観点から検討していただきたい。